

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02251

研究課題名(和文) 地域の文化財群としての小城鍋島藩蔵書の研究 その全貌の解明と具体例の分析

研究課題名(英文) Research of the Ogi Nabeshima Han Library : As a Model for the Elucidation and the Analysis of the Cultural Assets of the Area

研究代表者

中尾 友香梨 (NAKAO, Yukari)

佐賀大学・全学教育機構・准教授

研究者番号：10441734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、肥前小城藩の藩主家と藩校に伝わっていた蔵書群である小城鍋島文庫の典籍を調査し、具体例として当文庫所蔵の『十帖源氏』を輪読・翻字し、分析を加えた。
 主要なる成果物として、2017年5月に『小城鍋島文庫蔵書解題集(試行版)』を刊行し、また2018年3月に笠間書院より『佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵「十帖源氏」立圃自筆書入本 翻刻と解説』を出版した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we have investigated the Ogi Nabeshima collection of books owned by the lord's family and its domain school. Furthermore, we have translated and analyzed Jujo Genji (十帖源氏) out of this collection as an example.
 As the main results of this research, we have compiled A Trial Version of the Bibliographical Notes on the Ogi Nabeshima Collection of Books, by The Ogi Nabeshima Study Group, in May 2017. We also successfully published The Transliteration and Commentary of the Jujo Genji that Have Many Notes Written in the Author's Own Hand, from Kasamashoin Publisher, Tokyo, in March 2018.

研究分野：日本近世文学

キーワード：小城鍋島文庫 十帖源氏 鍋島直能 立圃

1. 研究開始当初の背景

小城鍋島文庫は、肥前小城藩の藩主鍋島家と藩校に伝わっていた蔵書群であり、地域に残された重要な文化財である。

当文庫蔵書は、昭和30年代に佐賀大学附属図書館に寄贈され、同36年(1961)に島津忠夫「小城鍋島文庫善本書目解題」(『佐賀大学文学論集』第3号、のち『島津忠夫著作集』第10巻所収)によって学界に紹介されて以来、日本古典文学研究の貴重な資料群として高い評価を受けてきた。

まず、当文庫蔵書を底本に用いた古典叢書や翻刻・影印資料として、島津忠夫校『誹諧旅枕』(西日本国語国文学会翻刻双書第1期第5冊、1961年)、城島正祥校注『葉隠』(江戸史料叢書、人物往来社、1968年)、洒落本大成第6巻所収「一目千本」(中央公論社、1979年)、島津忠夫・麻生朝道解題『小城鍋島文庫本平家物語』(汲古書院、1982年)、鈴木栄三編『中世なぞなぞ集』(岩波文庫、1985年)、『異字同体解読辞典』(西日本文化協会、1988年)、吉田幸一編『雄長老集』下巻所収「漢和」(近世文芸資料第25編、1997年)などが挙げられ、これらの底本に用いられた書籍はいずれも当文庫固有の資料として注目を集めた。

また、当文庫蔵書に関する研究論文としては、島津忠夫「夫木和歌抄五句索引のこと」(『和歌史研究会会報』第2号、1961年6月)、同「小城鍋島文庫本平家物語をめぐって」(『佐賀大学文学論集』第4号、1962年9月、のち改稿して『小城鍋島文庫本平家物語』に解題として再録)、同「小城鍋島文庫『忠度集』」(『王朝文学』第7号、1962年10月)、麻生朝道「天草本平家物語〔巻二の二から巻三まで〕の底本について」(『佐賀大学人文紀要』第1号、1965年3月、のち『小城鍋島文庫本平家物語』に再録)など初期のものから、高木昭英「小城鍋島文庫本『平家物語』雑感」(『九州龍谷短期大学紀要』第55号、2009年3月)、沼尻利通「野々口立圃『十帖源氏』の初版と覆刻」(『雅俗』第13号、2014年7月)など比較的に新しいものまで、約30本近くが発表された。

このように、当文庫は早い段階から学界の注目を受け、世紀を跨って積極的に利用される一面もあったが、長い間、蔵書の全貌と特徴が明らかにされておらず、目録も完備していなかったため、利活用しにくい状況にあった。

2. 研究の目的

(1) 小城鍋島文庫蔵書の現況を明らかにする。

当文庫の目録としては、1976年に出版された『小城鍋島文庫目録』が、現段階では最もまとまったものであるが、きわめて簡略なものであり、最小限の事項しか記載されていないため、いかなる書物が、いかなる状態で現在当文庫に蔵されているのか、この目録を見

るだけでは把握できない。しかも、分類基準が必ずしも統一されておらず、同一の内容の書籍が異なる分野に分類されていたり、書名に誤りがあったりして、混乱をきたすことも多々ある。

このような状況を改善するため、当文庫蔵書について悉皆網羅的な書誌調査を行い、現況を明らかにして、さまざまな研究に資する。

(2) 小城鍋島文庫の蔵書形成の過程をできるところまで解明する。

当文庫は佐賀小城藩の藩主家と藩校が近世初期から明治初期にかけて蓄積した蔵書群であり、その形成過程はいうまでもなく歴代藩主と一族、及び藩士たちの文化的営為と密接につながっていた。

したがって、蔵書形成の過程をある程度解明できれば、これらの書籍を積極的に蒐集、利用していた歴代藩主とその周囲の人々の知的・学問的レベル、及び藩校の教育レベルと内容について知ることができる。

しかもそれは、近世期の地方の大家と藩校の蔵書形成の過程を解明する一つのモデル研究にもなりうる。

(3) 小城鍋島文庫の特色の一端を明らかにする。

当文庫には幅広い分野のさまざまな内容と性質の書籍が蔵されている。その中から具体例を抽出、分析することによって、文庫の特色の一端を明らかにする。

そのことによって、近世大名文化圏の具体的な様相の解明に資することができ、また大名家と皇族・公家衆、漢学者、俳諧師、渡来人など社会各階層の人々との文化的交流についても知ることができる。

3. 研究の方法

(1) 文庫蔵書の詳細な書誌調査

毎年、夏季休暇または春季休暇を利用して、2泊3日または3泊4日の日程で文庫蔵書の書誌調査を行った。

毎回の調査では、研究代表者と分担者がそれぞれ1~2名の研究協力者(大学院生または学部生)とチームを組み、自身の専門領域を中心に蔵書の書誌調査を担当した。

調査項目は、刊・写本の区別、書型、巻・冊数(存・欠)、題簽、編著者、刊・写年、見返、序・跋文、目録(目次)、奥書、識語、書入れ、挿絵、奥付、蔵書印、その他などとし、可能な限り詳細に小城鍋島文庫蔵書の現況を記録した。

(2) 具体例の分析

基本的に毎月1回、研究会(小城鍋島文庫研究会例会)を開き、文庫蔵書の具体例として、当文庫の基礎を築いた小城藩二代藩主鍋島直能(1622~1689)の蔵書印が捺されている『十帖源氏』をテキストにとりあげ、本文と書入れの輪読と翻字を行うと同時に、該書

が小城鍋島文庫に蔵された背景と意義についても分析を行った。

4. 研究成果

(1) 書誌調査で蓄積したデータをもとに、『小城鍋島文庫蔵書解題集』(試行版)を作成・発行した。

研究期間内に文庫の蔵書全体を調査することはできなかったが、約6割の蔵書の調査を終えた。そして蓄積したデータをもとに、最終年度に解題集の試行版を作成・発行し、中古文学会と日本近世文学会の春季大会会場にて広く頒布した。

『小城鍋島文庫蔵書解題集』(試行版)は小城鍋島文庫蔵書に対する初の解題集の試みである。作成にあたっては、研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者が、それぞれ調査を担当した書籍について解題を執筆することを原則とし、執筆においては文庫固有の書誌情報の記述に重心を置いた。

文庫調査の経過報告を兼ねての試行版であったため、体裁の不統一、内容の繁簡などの問題はあったが、専門家たちから概ね好評を得た。

今後、残り4割の書籍についても書誌調査を継続し、体裁を整えて解題集の完成と正式出版を目指す。そのことによって、小城鍋島文庫蔵書の現況を学界に広く報告し、さまざまな研究に資する。

(2) 毎月1回開催した研究会にて輪読と翻字を重ねた『十帖源氏』を、一書にまとめて笠間書院より出版した。

『十帖源氏』は近世初期の貞門の俳諧師・野々口立圃(1595~1669)による源氏物語梗概書である。小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』には、著者立圃の自筆による奥書が備わっており、また夥しい数の註釈的書入れが存する。

該書の輪読と翻字を重ねながら、考察と分析を行った結果、いくつかの新しい事実を突き止めることができた。

『十帖源氏』の版本は、跋文、刊年(万治四年卯月吉辰)、書肆名(荒木利兵衛)、著者名(立圃)の有無によって、以下の4種類に分けられる。

ア 無跋無刊記本

イ 跋文と著者名のみが刷られている本

ウ 跋文と刊年、書肆名が刷られている本

エ 跋文と刊年、著者名が刷られている本

版行順はア イ ウ エであり、本文はすべて同一版本によって刷られたものとされていたが、実はイとウの間で版木が変わったこと、つまりウはイの覆刻版(被せ彫り)であることが判明した。

『十帖源氏』は承応三年(1654)に成立し、万治四年(1661)に刊行されたというのが、定説であるが、実は慶安年間に成立、刊行されたことが、小城鍋島文庫本の書入れによって判明した。

小城鍋島文庫本に存する墨筆の夥しい書

入れは、奥書と同じく著者立圃の自筆によるものであり、当文庫には該書以外にも立圃の自筆本が蔵されているので、小城藩二代藩主鍋島直能と俳諧師立圃の交流が推測される。

早稲田大学九曜文庫と国立国会図書館の『十帖源氏』にも、小城鍋島文庫本とよく似た書入れが存し、両書がいずれも立圃一門の旧蔵書であったと判断されることから、『十帖源氏』はけっして従来よくいわれているように、立圃が古典の源氏物語を当時の婦女子にもわかりやすく俗訳・要約して広く普及させるために執筆したのではなく、まずは門人の教育に用いるために作ったものと見るべきである。

(3) 展示会「地域の文化財群としての小城鍋島文庫蔵書」とシンポジウム「肥前鍋島家の文雅」を佐賀大学地域学歴史文化研究センターと共催し、本研究の成果の一部を地域住民に広く報告した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計58件)

中尾 友香梨, 白石 良夫, 三ツ松 誠, 土屋 育子, 亀井 森, 日高 愛子, 大久保 順子, 村上 義明, 二宮 愛理, 河野 未弥, 「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(四) 梅枝巻~竹河巻」, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター『研究紀要』第12号, 2017年, pp.79-126, 査読無。

<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/123289>

白石 良夫, 日高 愛子, 亀井 森, 沼尻 利通, 大久保 順子, 村上 義明, 脇山 真衣, 二宮 愛理, 片桐 美優, 溝内 菜央, 「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(三) 玉鬘巻~真木柱巻」, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター『研究紀要』第11号, 2017年, pp.87-110, 査読無。

<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/123269>

中尾 友香梨, 中尾 健一郎, 「小城鍋島文庫蔵書解題稿(二)」, 『佐賀大学全学教育機構紀要』第5巻, 2017年, pp.1-5, 査読無。
<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/123045>

三ツ松誠, 「貴重書紹介『柴田介次郎上海談聞書』(小城鍋島文庫)」, 佐賀大学附属図書館報『ひかり野』第41号, 2017年, pp.1-5, 査読無。

<http://www.lib.saga-u.ac.jp/pdf/hikari-no41.pdf>

三ツ松誠, 「中島広足『佐嘉日記』と野中古水」, 『西日本国語国文学』第4号, 2017年, pp.31-45, 査読有。

中尾 友香梨, 白石 良夫, 日高 愛子, 三

三ツ松 誠, 亀井 森, 沼尻 利通, 大久保 順子, 土屋 育子, 脇山 真衣, 二宮 愛理, 明石 麻里, 村上 義明, 「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(二) 賢木巻~少女巻」, 『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第20巻第2号, 2016年, pp.1-35, 査読無.

<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/122718>

中尾友香梨, 「来日明人任元衡より鹿島藩主鍋島直條に贈られた填詞作品」, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター『研究紀要』第10号, 2016年, pp.35-49, 査読有.

<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/123016>

日高愛子, 「架蔵『直能公御詠歌集』」, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター『研究紀要』第10号, 2016年, pp.121-133, 査読有.

白石 良夫, 「小城鍋島文庫蔵書解題稿(一)」, 『佐賀大國文』第44号, 2016年, pp.23-28, 査読無.

<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/122687>

白石良夫, 「鍋島直嵩主催の歌合」, 亀井森編『井上文雄判 柳河藩歌合集』(柳川文化資料集成第1集-2), 2016年, 附録月報, 査読無.

中尾 友香梨, 「肥前鹿島藩主・鍋島直條と詞」, 日本詞曲学会誌『風絮』第12号, 2015年, pp.92-134, 査読有.

中尾 友香梨, 白石 良夫, 日高 愛子, 三ツ松 誠, 沼尻 利通, 大久保 順子, 土屋 育子, 明石 麻里, 村上 義明, 「小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』翻刻稿(一) 桐壺巻~葵巻」, 『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第20巻第1号, 2015年, pp.1-41, 査読無.

<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/122718>

[学会発表](計32件)

中尾 友香梨, 「鍋島家の藩主たちがくり広げた絢爛たる文雅の交流」, シンポジウム「肥前鍋島家の文雅」, 於佐賀大学, 2017年.

白石 良夫, 「香雪・梧竹・鍋島家」, 同シンポジウム.

日高 愛子, 「直能の和歌 堂上歌人との交流と古典享受」, 同シンポジウム.

三ツ松誠, 「直正と松根 政治と文事」, 同シンポジウム.

田中圭子, 「薫物体験: 肥前鍋島家と薫物 霊元天皇勅作「黒方」と「玉椿」の香りを楽しむ」, 同シンポジウム.

中尾 友香梨, 「佐賀城下にあった幻の大名庭園」, 第6回佐賀大学ホームカミングデー(講演), 2017年.

中尾 友香梨, 「小城鍋島文庫蔵典籍について」, 講演会「小城鍋島文庫とは?? - 佐賀大学附属図書館所蔵 貴重資料の世界」,

於佐賀大学, 2017年.

白石 良夫, 「帚木巻の異文の解釈 オコツク考、オゴメク考」, 佐賀大学国語教育研究会, 於佐賀大学, 2017年.

白石 良夫, 「鍋島直嵩主催明和九年歌合について」, 佐賀大学国語国文学会, 於佐賀大学, 2016年.

田中圭子, 「浮舟巻の『つゝみふみ』と『花鳥余情』 勅物 古註釈書に伝わる薫物の贈答様式について」, 第4回古写本『源氏物語』の触読研究会, 於国立民族学博物館, 2016年.

中尾 友香梨, 「肥前鹿島藩主・鍋島直條と填詞」, 小城鍋島文庫研究会第3回研究発表会, 於佐賀大学, 2015年.

[図書](計25件)

白石良夫・中尾友香梨編, 小城鍋島文庫研究会校訂, 『佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵「十帖源氏」立圃自筆書入本<翻刻と解説>』, 笠間書院, 2018年, 総410頁.

中尾友香梨著, 『佐賀城下にあった幻の大名庭園 観頤荘』, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター, 2018年, 総101頁.

中尾友香梨・高橋研一・中尾健一郎編, 『鹿島文学 甦る地域の文化遺産』, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター, 2018年, 総131頁.

小城鍋島文庫研究会編, 『小城鍋島文庫蔵書解題集(試行版)』, 小城鍋島文庫研究会, 2017年, 総60頁.

浮世草子大事典編集委員会編, 大久保順子ほか分担執筆, 『浮世草子大事典』, 笠間書院, 2017年, 総1010頁.

伊藤昭弘編, 中尾友香梨・三ツ松誠ほか分担執筆, 『佐賀学 佐賀をめぐる「交流」の展開』, 海鳥社, 2017年, pp.133-154(中尾), pp.233-230(三ツ松)

中尾友香梨編, 『佐賀藩第三代藩主鍋島綱茂の文芸 『観頤荘記』を読む』, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター, 2016年, 総64頁.

三ツ松誠編, 『花守と介次郎 明治を担った小城の人びと』, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター, 2016年, 総110頁.

伊藤昭弘編, 三ツ松誠ほか執筆, 『小城の祇園祭 千葉・鍋島から現代へ』, 佐賀大学地域学歴史文化研究センター, 2015年, 総90頁.

[その他]

小城鍋島文庫研究会のウェブサイト
<https://sagakoten.jimdo.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中尾 友香梨 (NAKAO, Yukari)

佐賀大学・全学教育機構・准教授

研究者番号: 10441734

(2)研究分担者

白石 良夫 (SHIRAIISHI, Yoshio)
佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・
特命教員
研究者番号：60137320

日高 愛子 (HIDAKA, Aiko)
志學館大学・人間関係学部・講師
研究者番号：20706741

大久保 順子 (OHKUBO, Junko)
福岡女子大学・国際文理学部・教授
研究者番号：30259791

土屋 育子 (TSUCHIYA, Ikuko)
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号：30437800

沼尻 利通 (NUMAJIRI, Toshimichi)
福岡教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：90587635

亀井 森 (KAMEI, Shin)
鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教
授
研究者番号：40509816

(3)連携研究者

三ツ松 誠 (MITSUMATSU, Makoto)
佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・
講師
研究者番号：10712565
(H27 から連携研究者として参画)

谷口高志 (TANIGUCHI, Takashi)
佐賀大学・教育学部・准教授
研究者番号：10613317
(H27 に連携研究者として参画)

田中 圭子 (TANAKA, Keiko)
広島女学院大学・総合研究所・客員研究員
研究者番号：20435051
(H28 から連携研究者として参画)

中尾 健一郎 (NAKAO, Kenichiro)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：30511662
(H28 から連携研究者として参画)

(4)研究協力者

村上 義明 (MURAKAMI, Yoshiaki)
九州大学大学院博士後期課程在籍

二宮 愛理 (NINOMIYA, Airi)
九州大学大学院博士後期課程在籍

脇山 真衣 (WAKIYAMA, Mai)
伊万里特別支援学校教諭

河野 未弥 (KOHNO, Miya)
大分上野丘高等学校教諭

明石 麻里 (AKAISHI, Mari)
鳥栖商業高等学校教諭